

# 事業名:「環境エネルギーまちづくり」を通じた地域社会イノベーション 2020年度事業の実績・成果

東京大学 連携市町村:新地町

連携市町村との協定締結日:平成30年6月3日

現地拠点:相馬郡新地町駅前1丁目5番地

観海プラザA棟1階 新地アーバンデザインセンター

## 事業のポイント

福島県新地町において、地域エネルギーシステムの将来ビジョン構築、関係人口の動態分析とモビリティ向上に向けた政策提言、それらを統合した共創型地域マネジメントを、公・民・学連携のまちづくり拠点「新地アーバンデザインセンター」(UDCしんち)を設立して実践する。これにより「環境エネルギーまちづくり」のモデルを形成する。

## 今年度の活動実績

- 教育研究活動の実施・受入れ調整、活動や成果の情報発信と、地元の関係者と連携した地域への実装の推進。
- 町内世帯のライフログ調査、各種統計や町内での実測データを用いたエネルギー需要と風力発電ポテンシャルの解析、国内の地域新電力事業者の設立・運営条件調査。
- アンケート実施による観光動態調査、および、全国で実施されている電動アシスト付き自転車レンタル制度のレビュー。
- 大学院演習には学生24名が参加。2回の現地訪問に加えて、地元関係者からの講義やインタビューをオンラインで実施。
- 尚英中学校1年生エネルギー学習や地域づくりワークショップ、成果報告会もオンラインで開催。

## 今年度の成果

- UDCしんちの通信環境を活用した遠隔での連携体制の構築と、地元の関係者が主体となるまちづくり拠点としての機能強化。
- 地域のエネルギー・ビジョン構築に資する、エネルギー需要推計と再生可能エネルギー・ポテンシャルの評価と、地域エネルギー供給事業の適用可能性に関する論点の提示。
- 電動アシスト付き自転車レンタル制度の地域への導入可能性検討に向けた、全国の制度の類型化とその共有。
- オンラインの活用による新たな関係人口の獲得。および、それを手掛かりとする新たな地域づくりのあり方の検討の開始。

## II. 地域のエネルギー・ビジョン構築とその担い手育成

- くらしアシストシステム導入世帯対象、全構成員ライフログ調査  
8月:14世帯、11月:17世帯
- 将来エネルギービジョン検討  
需要推計、風力発電賦存量評価
- 地域新電力の調査
- 大学院演習 学生21名、訪町2回



新地町フィールド調査

⇒新地町ビジョンの提案  
担い手育成のエネルギー教育実施

## III. 「サステナビリティ学」に関する大学院プロジェクト演習を通じた関係人口の動態分析とモビリティ向上に向けた政策提言

- 訪町者アンケート実施(非接触型)  
・回答84件、追加ヒアリング2件
- 大学院演習 学生/TA3名、オンライン  
・制度レビュー、フィールド調査ほか
- 「みんなのシンチ・オンライン」開催  
(3回、のべ308人参加)



オンラインまち歩き

⇒新地町まちづくりへの提言作成  
観光協会と協働のオンラインツアー実施

協働プログラム参加・意見交換

活動の支援・参加

## I. 現場の活動拠点「新地アーバンデザインセンター」(UDCしんち)の設置・運営と駅周辺整備の支援・効果の評価

- 大学と町の連携機能・情報発信(オンラインにより定期的に実施)
- 「UDCしんち」(R1.11町や国立環境研究所等で開設)を町内オンライン拠点として活用

### 町立尚英中学校「エネルギー学習」

実施:2020.9.9  
教員等:7名  
中学一年生:73名  
※R元年度より実施



柏キャンパスより  
オンライン講義

### 公開成果報告会

実施:2021.1.20  
教員等:12名  
学生参加:14名  
参加者:47名  
※R元年度より実施



新地町・国立環境研究所  
等が参加(オンライン)

2021年度～

3年間の活動成果を活かし、新地町・国立環境研究所と連携して活動を継続・展開

【教育研究活動】

【交流・学びの場】